



さんばそう
1. 三番叟

烏帽子をかぶり、紫色のはかまと背中に太陽の絵がある羽織を着て、手には鈴と扇を持ち、手足を上げながらゆっくりと舞います。五穀豊穡などを願い、最初に演じられます。

燈籠人形の演目

2. 俵小僧力自慢

赤いズボンと派手な上着を着て、紅白のはちまきを巻いた外国風の人形が俵の上に立ち、俵を持ち上げたり逆立ちしたりします。紙の俵を重そうに持ち上げる様子は、糸操りの面白さを伝えます。



きょくばかご
3. 曲馬籠抜け

左手に手綱、右手にかさを持った若武者の人形が白馬にまたがり、籠の前まで行ったり来たりしながら、最後は姿勢をかがめて狭い籠の中を一気に駆け抜けます。息の合った巧みな糸操りは、まさに曲芸です。

今も伝えられるのは4種類ですが、昔は他の演目もあったといわれます。

あんちんきよひめ
4. 安珍清姫

能や歌舞伎などで有名な「娘道成寺」の一節。旅の僧、安珍に思いを寄せた清姫がだまされたと知り、蛇に姿を変えて追いかけるという話です。2体の人形が緩急をつけながら上下左右に動く様子は、観客を引き込みます。



初心に返り、しっかり演じたい

中宿糸操燈籠人形保存会会長 須藤 始さん

地元区長で保存会会長の須藤さんも24年前の公演に出演した1人。曾祖父の代から燈籠人形に携わっているそうです。「前回の経験者や、人形の作り方や動かし方を覚えている人も少なくなってきたが、ここで再び途絶えさせるわけにはいかない」と言います。

復活公演を目前に、「あとで後悔しないように、基本的なことをしっかりやりたい。初心に立ち返り、新たなスタートを切る気持ちで臨みたい」と意気込みを語ってくれました。



世代を超えて、受け継がれてきた燈籠人形。その「わざ」を次代につなぐ「復活」の幕がもうすぐ上がります。その瞬間を、見てみませんか。

国指定重要無形民俗文化財

中宿の糸操燈籠人形

11月15日(土)

午後2時 / 午後5時

会場 中宿公民館(中宿1-8-6)

※雨天の場合、16日(日)に順延
(16日が雨天の場合は中止)

※車でお越しの際は、群馬県安中
総合射撃場(中宿2003)南側河
川敷に止めてください

☎070-6455-1988

(事務局、日中のみ)